

令和4年度 一宮小学校 総括評価表 ②

自 己 評 価				学校関係者評価	次年度への課題と
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評 価	学校関係者の意見	今後の改善方策
進んであいさつをしたり、正しい言葉づかいで話したりする習慣が身に付いていない児童がいる。	<p>Ⅱ) 豊かな心の育成</p> <p>① 体験活動や人々との交流を織り込んだ、多様な教育活動を展開する。</p> <p>② 組織的な生徒指導体制の充実を図り、いじめ・不登校等の問題への取り組みを強化する。</p> <p>③ あいさつの習慣や、正しい言葉遣いの定着と、道徳教育の充実を図る。</p> <p>④ 集会活動、ボランティア活動や異学年活動などの特別活動の充実</p>	<p>評価指標</p> <p>①-1 保護者アンケートによる「体験や交流学習の取り入れ」の達成率80%以上</p> <p>①-2 体験学習や交流活動を毎学期実施する。</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>①-1 体験学習や交流学習の取り入れの達成率 85%で指標を上回った。</p> <p>①-2 新型コロナ感染予防を意識しながら、できる形での実施を行うことができた。</p>	<p>総合評価</p> <p>(評定)</p> <p>B</p> <p>(所見)</p> <p>重点目標①については、新型コロナ感染予防を意識しながら、予定通りではない部分もあったが、現状でできる形での体験活動や交流学習を実施することができた。今後は可能な範囲で体験や交流学習を取り入れていきたい。</p> <p>重点目標②については、指標を上回ったが、今後とも児童・保護者の信頼が得られるよう、より深く児童一人ひとりを見つめ、指導にあたるとともに、保護者との連携強化に努めたい。</p> <p>重点目標③については、今後も引き続き、あいさつや場に応じた言葉づかいの指導に力を入れていきたい。</p> <p>重点目標④については、今後も継続して活動し、思いやりの心を育てていきたい。</p>	<p>体験学習や交流学習に対する工夫が感じられる。少人数であるためか、先生方の児童理解は、すばらしいものがあると感じる。子どもの落ち着いた様子や笑顔を拝見し、先生方の取り組みができていたと感じた。</p> <p>① コロナ禍の状況に応じて、従来の体験学習や交流学習の取り組みはすばらしいものがある。今後とも工夫を凝らした体験学習を実施してもらいたい。</p> <p>② 学校外でのスマホを使ったトラブルについては、安易に学校を通す形ではなく、保護者同士や PTA、育成会などを通す形で、解決に導くことも必要ではないだろうか。</p> <p>③ あいさつは自然によくできていると感じるが、場に応じた言葉づかいもできるようになってきている。発達年齢に合わせた指導をこれからお願いしたい。</p> <p>④ 道徳心や思いやりの気持ちの育成に、今後も力を入れて取り組んでほしい。</p> <p>⑤ 縦わり班活動で、心の育成ができています。また、責任をもって仕事をする中で、自信ももてるようになってきている。今後も取り組んでほしい。</p>
		<p>②-1 保護者アンケートによる「相談体制」の達成率80%以上</p> <p>②-2 児童・保護者アンケートによる「いじめ・不登校対応」の達成率80%以上</p>	<p>②-1 相談体制については、達成率 90%で指標を達成することができた。</p> <p>②-2 いじめ・不登校対応の達成率は、児童 90%、保護者 92% と、児童・保護者ともに指標を上回った。</p>		
		<p>③-1 児童・保護者アンケートによる「あいさつ、正しい言葉づかい」の達成率80%以上</p> <p>③-2 帰りの会で、めあての達成率80%以上</p>	<p>③-1 児童は 92%、保護者は 82%となり、児童も保護者も指標を上回った。</p> <p>③-2 めあてによって達成率に差があり、全体的に見ると指標を達成できているとはいえない。</p>		
		<p>④ 異学年活動や集会活動、ボランティア活動を毎週行う。</p>	<p>④ 全校ボランティアやわくわくタイムなどで、ほぼ毎週実施することができた。</p>		
		<p>活動計画</p> <p>①-1 地域の自然や歴史に関する体験活動や、縦割り班活動、地域の保育所、近隣小、中学校との交流の充実を図る。</p> <p>①-2 教科書や読み物資料を有効に活用し、道徳教育の充実を努める。</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>①-1 自然や地域・歴史に関する体験活動を進めてきた。しかし、新型コロナ感染拡大防止の観点から従来通りの内容は実施できていない。その結果、保護者のアンケートでは 85%の達成となった。</p> <p>①-2 教科書だけでなく読み物資料や新聞を活用し、ロールプレイ・アサーショントレーニング等を取り入れ道徳教育の充実を努めた。</p>		
		<p>②-1 児童一人ひとりの実態把握に努め、全校的な共通理解や指導体制の構築を進める。</p> <p>②-2 保護者への連絡を密にし、教育相談や教育調査等を重視した体制づくりを進める。</p>	<p>② 学校生活アンケートの結果を分析し、児童の人間関係や生徒指導上の諸問題について全校的に共通理解を図り、全教職員で指導にあたってきた。また、定期的に生徒指導委員会・校内委員会を開催し、情報交換に努めた。直接または電話や連絡帳を通して、保護者への連絡体制の構築に努めてきた。</p>		
		<p>③-1 朝のあいさつ運動の実施など、児童会や教職員が進んでいき、気持ちのよいあいさつや返事ができる学校づくりを進める。</p> <p>③-2 学校生活全体を通して、丁寧な言葉遣いを指導する。</p> <p>③-3 家庭や地域と連携し、あいさつや正しい言葉づかいをしようとする意欲を高める。</p>	<p>③ 6年生を中心に朝の挨拶運動を実施。全校に呼びかけたり児童朝会や学級指導を通したりして、継続して挨拶の大切さを指導してきた。保護者アンケートでは 82%であった。</p>		
		<p>④ 異学年交流やボランティア活動等で、よりよい人間関係を築き思いやりの心をはぐくむ。</p>	<p>④ 新型コロナ感染拡大防止の観点から校内での活動を効果的に取り入れて、わくわくタイム、縦割り班の活動を通して、思いやりの心を育ててきた。</p>		

「総合評価」における「評定」の基準 A：十分達成できた、 B：概ね達成できた、 C：達成できなかった